

心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工
学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会（第24期・第7回）
議事録（公開版）

日時：令和元年6月1日（土）11：00～12：00

会場：日本学術会議5階 5-A（1）会議室

出席：神尾，水口，赤松，浅野，伊香賀，内田，加野，神吉，木下，齋尾，定行，田中，
都築，中坪，福井，三輪（記録），湯川，吉野，仙田

小酒井（朝霞市よりオブザーバー）、野村，濱田，下出（国土交通省よりオブザーバー）、

西村（文部科学省よりオブザーバー）、宮崎（社会福祉法人日本保育協会よりオブザーバー）

配布資料

資料1 前回（第5回）議事録

資料2 シンポジウム資料

別添資料 5月20日（月）学術会議・土木工学全体会での報告PPT

1. 前回議事録の確認した。

2. 木下委員長より5月20日（月）学術会議・土木工学全体会での報告をPPT 別添添付にて共有した。

3. 骨子案についての意見交換が行われた。

・来年の9月頃までにまとめて出す。各分野からの査読に半年くらいかかるので、来年5月に査読にかけるために、今年度中にまとめるイメージ。

・成育環境分科会は3部にまたがるのと5つに委員会にまたがるため、とにかく査読に時間がかかる印象。経験上5月では遅いのではないか。今年度中にはまとまって出すのがよいのではないか。

・今年度、住宅の問題をテーマでやってほしいという意見があったが、開催予算が厳しい中でどのように進めるか。

・子育て世帯で働いている親が増え「学童施設」の議論がある中で、地方公共施設の話題にするのか、放課後の居場所とするのか、といったことでも観点が異なるだろう。

→ドイツでは多様な主体に関わる、経験をするという施策をしている。日本で学童保育、放課後育成については議論や課題が多い。子どもの生活の実態では学校と家の往来のみが中心。廃校のこともある。横断的にまたがる形で議論ができる構成を見せたい。

- ・(6)のような分け方が目次としては異なるかもしれない。
ここ十年で家庭の機能が変わってきた。地域性の特性（地域によって異なる特徴）。
論点が並んでいた方がよい。
- ・この場の議論を踏まえて、子ども主体でのニーズとか機能が分かれて書かれていて、過去に省庁の対応表があった方がいいのではないか。
- ・子どもの居場所としてまとめてみる。0歳～12歳までの養護と教育、Child Center Education、長休みと日常、中身とこどもの居場所の関連、地域に根ざした内容のこともある。
- ・今回の提言はどこをねらうのか。
- ・予算の使い方の仕組みも入れてく必要がある。ドイツは日本と同じ個人に配る。少子化も進んでる。フランスでは家庭に配らず社会的措置に入れてある。
- ・なぜ子どもに予算を付けなければいけないか、というのを強くストーリーを出してわかりやすく。総花的にするのではなくポイントをまとめるのが必要。
- ・子どもの居場所が各年齢で作られていくこと、発達段階に応じて場が作られていることをアピールすることが必要。
- ・6月中に委員長と幹事を中心に目次案を再検討正して案を提示。7月末頃を目処に、委員からの意見を徴収し、秋頃に次の会議を開催したい。できれば住宅をテーマにすることも検討する。

次回会議 10月23日(水) 15時～